

## ごあいさつ



本書は平成21年度の「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を記録したものです。

国立美術館が行う、学校と美術館の連携による鑑賞教育についての研修も、4回目となりました。今年も8月3日から5日までの3日間、全国から小・中学校の教員や指導主事、学芸員あわせて128名が東京国立近代美術館と国立新美術館に集まり、研修が行われました。

昨年告示された新しい学習指導要領の改善点には、伝統文化の尊重、言語力の育成、美術館等との連携という、美術館と関係の深い事項が挙げられています。研修の初日で行われるギャラリートークに見るような子どもたちの姿、つまり子どもたちが美術館にある作品群に触発されて、自分の思いを話したり、友達とともに考えたり批評しあったりしながら鑑賞を深めていくという姿を、全国の美術館で見られるようにするために、教員と学芸員がともに学び、考え、連携の可能性を探ろうとすることが、この研修の目的です。

研修は、受講者全員が聴講する講演や事例紹介だけでなく、ギャラリートークやグループワーク、分科会など、少人数にわかれて同時に進められたプログラムを含みます。本書では、受講者の感想などを細かく拾いながら、できるだけ各所で何が起こっていたかを伝えるように工夫しました。本書を通じて、貴重な講演内容はもちろん、受講者がいかに真剣に鑑賞教育について取り組み語り合ったかについても読み取っていただければ幸いです。

研修の開催と本書の刊行にあたり、温かいご協力を賜りましたみなさまに、心より感謝申し上げます。



平成22年2月

独立行政法人国立美術館理事長  
青柳正規